

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	マーコウ・アタック	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：マーコウ・アタック

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：マーコウ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

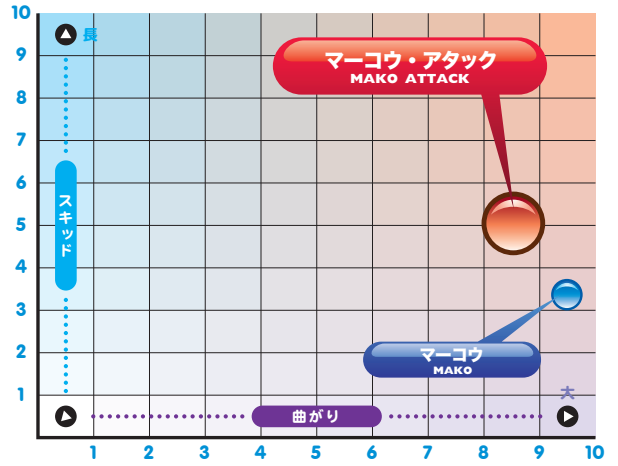
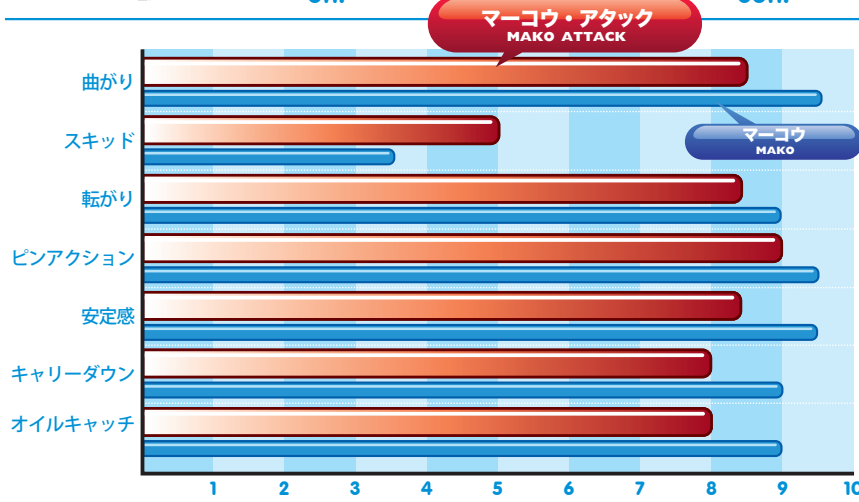
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

新たな添加物配合で世界的にEBI(EBONITE INTERNATIONAL)のHybrid CoverStockとPearl CoverStockが注目を集める中、「今までとどう違うのか?」という問いに、その違いをPerformanceとして表すことのできるボール。それがこのMAKO ATTACKです。TRACK社の中でQR(Quick Response)最上級のHybrid素材で構成されたQR-10 Hybrid、初代MAKOで大きなネジれを発生させたMAKO Coreとの組み合わせは、初代MAKOのような大きな曲がりのなかでの扱いやすさを求めたものではなく、「ATTACK」というネーミングに示されている通り、Quick Response CoverStockを前面に表した、オイルに対しての強さもさることながら攻撃性を重視した性能が開発コンセプトです。

実際にMAKOと比較投球してみると、明らかに性能領域の違いを感じます。手前からの強いキャッチをブレーキとしてMidエリアから大きく曲がろうとするMAKOに対し、MAKO ATTACKはCoreの動きをBackendに凝縮させたような、明確にBackendに動きの比重を傾けていると感じるほど、動きの俊敏さをイメージできます。以前はTRACK社のボールもPerformanceを出そうとする場合、Solid素材中心に開発が進められてきました。しかし新たな添加物配合でCoverStockの基準も変わり、HybridやPearlでも強い摩擦が得られるようになり、またドライゾーンでの反応の良いグリップ感はHybridやPearlの方がでる傾向が表れてきました。ここからTRACK社やCOLUMBIA社のボールは飛躍的にPerformanceが上がり、他社メーカーとも互角以上の性能を発揮できるブランドとして位置づけられるはず。まずはこのMAKO ATTACKを投球して頂き、今までのTRACK社のイメージとどこが違うのかを試すときです。

特記事項

初代MAKOのSolidCoverstockからHybrid CoverStockに変わったことでフロントからMid、Backendに至るまで非常にバランスが整えられ、Hybridならではのシャープさも得られます。